別記様式（第４条関係）

会　　議　　録

会議の名称	平成 29 年度第１回宍粟市地域包括支援センター運営協議会	
開催日時	平成 29 年７月 11 日（火）　13：30～15：10	
開催場所	宍粟市役所北庁舎４階　401 会議室	
議長（委員長・会長） 氏　　名	垣尾会長	
委員 氏　　名	（出席者） 舩曳委員、伊藤委員、千本委員、栗林委員、 高田委員、福原委員、森元委員、橋本委員、 堀田委員、高田委員、縣委員、西川委員、 春名委員、大路委員、河野委員、上月委員	（欠席者）
事務局 氏　　名	健康福祉部世良部長、津村次長、一宮保健福祉課田路課長、 波賀保健福祉課田中課長、千種保健福祉課田村課長、 介護福祉課谷林課長、小椋副課長、包括支援係木村係長、 坂口主任保健師、高田主任保健師、中川生活支援コーディネーター	
傍聴人数	０人	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（議題及び決定事項） （１）　平成 28 年度地域包括支援センター事業実績について （２）　平成 29 年度地域包括支援センター主要事業について	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認 （記名押印）	（委員長等） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞	

（会議の経過）

発言者	課題・発言内容
	１．開会 ２．あいさつ ３．協議事項 （1） 平成 28 年度地域包括支援センター事業実績について(事務局より説明)
A委員	総合相談事業について、特に多い相談事例は何か
事務局	認知症に関することが増えてきている 近隣住民、民生委員、市外に住む子どもからの相談が増えている 関係機関からの相談では、総合事業についての相談が増え、関連して介護支援専門員からはケアマネジメントについても多い 病院は市内だけでなく市外からも退院調整、今後の生活の相談調整について、情報共有や情報提供を行っている
A委員	在宅介護支援事業について、介護者の会は宍粟市社会福祉協議会が事務局を担当している。毎月活動しているため、行政からも活動内容の提案など情報提供をお願いしたい 配食サービスは平成 29 年 6 月から週 2 回に回数変更している 総合事業について、いろんな媒体を利用して、市民の理解が得られるように啓発を行ってほしい （2） 平成 29 年度地域包括支援センター主要事業について(事務局より説明)
B委員	総合事業について、広報で掲載されていたが、まだ広く周知されていない
事務局	一般の方はもちろん、病院や関係機関にも目に留めていただけるように周知に努める。同時に窓口の周知も必要だと感じている
C委員	事業所内では、事業対象者と要支援認定者が入り混じって、同じようにサービスを利用されている。区別が難しく、従業員も迷っている状況。
事務局	今後、利用者、事業者、介護支援専門員にきちんとした基準をお示しする。

Ｄ委員	金額や回数といった制度的な変化はあるが、利用者やサービス内容に変化があるわけではないと理解している
Ｅ委員	数名要支援認定者がおられ、利用できなくなるのではと不安に思われている。事業者、介護支援専門員など関係機関と情報共有し、利用者や家族へ不安を与えないように説明している
Ｆ委員	前もって制度改正が分かっていながら、今の段階で周知が不十分というのはいかがなものか、もっと早く取組むべきではなかったのか
Ｇ委員	要介護認定を申請した時点で、もうすでに認知症の症状が進んでいる方はたくさんおられる。介護者の負担も大きいと感じる。認知症初期集中支援チームに期待している
Ｈ委員	認知症初期症状の方への介護者の接し方について、隠すのではなくおだやかに話ができる地域になるように、対応の仕方をみんなで学べる機会や集まりがあればと思う
Ｉ委員	日々介護をする家族でも、周囲から言われてはじめて気づく変化もある。 分からないままに病院受診、検査、自宅の改修、サービスの利用を進めたが、本人が新しい環境に適応できず、症状が進んでしまった。 その時の症状に応じた段階的な支援ができていたらこうはならなかったのかもしれない。地域の中で相談できていたら進行度合いも変わっていたのかもしれないと思う ４．報告 ・宍粟市老人福祉計画第７期宍粟市介護保険事業計画の策定について 　経過報告 ５．その他 なし ６．閉会